

ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ  
ψ

# 第55号

## 執筆者 @短信

### 山岸 若菜

訪問看護の仕事をする上で大切なことの1つにトイレの確保があります。訪問先には車でまわるので、移動距離も長くわざわざトイレのために事務所に帰ることもできません。ドラッグストアやスーパーなどトイレがあるお店を把握しておくことが大切なのです。もちろんコンビニでトイレを借りることもあります。コンビニでトイレだけ借りて出ていくわけにもいきません。ちょっとしたものを買うことになるので、私はそういう時『チョコボール』を買うことに決めています。

何と言っても100円以下！そして運が良ければエンゼルが出てくるかもしれない！と思って買い始めたのですが、かれこれ十数年。少なく見積もって、月2個買ったとして年24個、仮に10年として240個。ジワジワ値上がりしてるけど1個80円として19200円。まあまあ買いでると思うのですが、いまだに金のエンゼルも銀のエンゼルも見ただことなし！ほんまにおるんか？

そろそろ森永に疑惑を持ち始めました。今は特別サービス期間でエンゼルが出てくる口が2つに増えてるんです。20000円貢ぐまであと10個。ここで現れてくれなにとさすがに出るとこ出なあかんかなと思ってます。

ある訪問看護師のアタマの中  
P325～

### 宮井 研治

今回の本編は「支援の資源としての音楽」についてです。私の個人的な支えとしての音楽について書きました。たぶん、音楽は支えになっているという話に賛同してくれる方も多いと思います。前回までは「面接の話」なんて書いてきたのに、今回、たぶんその次も「音楽」がいかにか人を支えるかの個人的音楽遍歴を書きます。「No music, No life！」我ながら、よいキャッチコピーだなんて(オリジナルではありませんが)悦んでおりました。



ところが、amazonの書籍を見ていると『シンセイハ、オンガクデアル』という本のタイトルが目飛び込んで来ましたがありませんか！びっくりしたわ！作者は、ブレイディみかこさん。『ぼくは、イエローで、ホワイトで、ちょっとブルー』というベストセラーになった本の作者さんと言えば、気が付かれる方も多いのではないかと思います。で、同じようなことを考えている人がいるのだなんて、まだ読んでいないのに勝手にシンパシーを覚え、読んでみました。一言で言えば「おもしろい！！！」「ぶつとんでる」「こういうことやで」と深く共感してしまいました。もちろん、彼女の場合、パンクというジャンルの音楽が中心にすえられるのですが、音楽がなかったら、イギリスにもいかなかったら、伴侶も子どもも、ましてや文筆活動もすることはなかったということが、まさにパンクな筆致で書かれていました。圧倒されました。そしてあの『ぼくは、イエローで、ホワイトで、ちょっとブルー』の作者のブレイディみかこさんとは違う形で再度ファンになりました。

ブレイディさんの著書には比べるすべもありませんが、音楽が人生に与える影響

というより、「人生＝音楽」であるという強いテーゼに後押しされて、今回の投稿を仕上げました。

人生は対応のヴァリエーション  
P332～

### 内田 一樹

2度目のコロナウイルスへの罹患後、どうにも気持ちがあがらない日々を送っています。コロナウイルスの後遺症か抵抗力も落ちているようで、体調もあまり万全ではないこともそれに拍車をかけているのかもしれない。なんとか休み休み残りの今年を終えて暖くなるまでやり過ごそうと思います。

社会科の授業を  
対人援助学の視点から  
P310～

### 中谷 陽輔

11月上旬に、家族で福井県立恐竜博物館および併設されているかつやまディノパークに行ってきました。恐竜好きの5歳の息子にとっては聖地のような場所で、2年間で3回目の巡礼となりました。

しかも今年リニューアルオープンしたので、その勢いにあやかって(!?)、地域のハロウィーンのときに着た、恐竜の全身パジャマを着ていくことを提案したら、息子(5歳)はノリノリ。2歳の娘も、兄につられてノリノリで、兄妹ともに恐竜パジャマで、旅の恥はかき捨てとばかりに敷地内を闊歩しました。するとパークの広報の人から声をかけられて写真&公式SNSにあげていいですか？といわれたので、つい気を良くしてOKし、数週後に確かにアップされました。

そんな日のことを、これまた気をよくしてここで書いているのですが、原稿でコンダテにおける「コントロール」について書いておきながら、我ながら、自身の「コントロール」がどれだけできているのか怪しいな、なんてことも書きながら思ったりしています。引き続きよろしく願いいたします。

コンダテノシンリ  
P300～

### 櫻井 育子

ここ数年、なぜか11月といえば関西方面に出かけていた。旅をするようになった

のはそれこそ東日本大震災後、である。それまでは自分のエリアで自分の仕事と自分の活動でいっぱい、地域以外の誰とも出会うことがなかった気がする。旅行もしなかった。借金(奨学金)を返すことでいっぱい、教員になってお金を得たとしてもそれは「わたしのもの」ではない感覚だった。すべての感覚が壊れたのが、震災だった。「恩を返すこと」「目の前にある大変な人を救うこと」のようなものにだけにとらわれてしまい、自分自身の感情をだいぶ鈍感にしてしまっていたんだろう。ところが震災ではすべての感情も何もかもが本当に「ゼロ」になった感覚だった。そもそもわたしには居場所がない(実家がない)、という体験があって「すべての場所がわたしの居場所である」に変わるまでのストーリーがわたしにはある。好きなところにいけばいい。長く続く、というのは変化がないのではなく、小さな自己変容を繰り返しながら続けている、ということでもある。フリーになって無意識で選んできた「行き先」には何か意味がある、と思えるようになった。そして、おそらくそれは場所の方から「呼ばれた」と思っていたのだが、どうやらいつも居心地のいい場所は相思相愛。今回の広島をきっかけにまた関西方面の皆さんとのつながりが濃くなった。出会っていただき感謝です。

[shukou0122@gmail.com](mailto:shukou0122@gmail.com)

<https://ikuko-sakurai.com>

わたしはここにいる

P296~

## 鳴海 明敏

### 児童心理治療施設の園長室から ~こかげのにちじょう~

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設(現在は、児童心理治療施設)の園長を引き受けてから、14年目に入っています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています。ということで、サブタイトルは「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

児童心理治療施設は、東北・北海道で現在5か所が運営されています。それらの施設持ち回りで年1回ブロック研修会を開催しています。今年度は、札幌市の施設

が担当で11月16日、17日の一泊二日の日程で開催されました。

一日目は、札幌市の子ども未来局子どもの権利推進課の子どもの権利推進担当係長さんから「子どもの権利・擁護について」というタイトルで札幌市の取組についてお話していただきました。お話の内容はさておいて、課の名称とご本人の肩書がストレートでびっくりしました。全児心では、今年度の第一回施設長会議において、今後協議会の中に子どもの権利擁護の委員会をつくる必要があるのではないかという議論があったのですが、今回の企画は、そのような動きを受けてのものでした。

二日目は、事例を基にグループで話し合いをするという研修で、おおぞら学園から事例を提供しました。事例について、時系列に沿って少し説明して小グループで話し合い、その内容を全体でシェアして、また少し説明をして話し合いをするというような進め方でした。

この事例は、へらへらと何の悪気もないような様子で無断外出や未帰園を繰り返したり、学園生活のルールを勝手に破りまくるというASD傾向の高校生女子のケースだったのですが、私の参加したグループは、施設職員と児相職員と分教室の教諭という立場の違う人がメンバーだったので、活発な話し合いができて面白かったです。

11月23日から25日までは、二泊三日の日程で八戸カウンセリングセンター主催のカウンセリングワークショップに参加してきました。参加者は10名前後で、いつもの相変わらずのメンバーなのですが、今回初めての参加者(63歳)がお一人居て、その方が参加者中の最年少者でしたという状況でした。ということで、話し合いのテーマは、死についてどう思っているのかとか、どうしたら次の世代につなげるかということでした。

### 児童心理治療施設の園長室から ~こかげのにちじょう~

P293~

## 高木 久美子

今回は、とても楽しかった学会広島大会のことをメインで書きました。マガジンの読者として見知っている方にリアルで会場

でお会いすると感慨もまたひとしおです。ありがとうございました。

ヨミトリ君は主に東海地区遷延性意識障害者と家族の会の会員さんの紹介で広がってきていましたが、最近、インターネットで探し当てて直でお問合せや支援のご依頼をいただくことが増えてきました。少しでもお力になれるよう一層がんばります!

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょ!

P283~

## 原田 希

祖母が亡くなってもうすぐ2年になろうとしています。朝ドラのブギウギを見て「笠置シズ子ってどんなほどスターやったん?」って祖母に聞いてみる想像をしています。「そら、大スターや。聴くだけで元気がでたで」と言って、一節歌ってくれたやろなあ。祖母の声までありありと頭に蘇るんやから、そばにいるのといっしょやけど…やっぱもっともって聞きたいことあるなあ…と思うのです。

原稿を書く際、テーマに関連することが、昔はどうだったのか?を牧場の両親に聞き取りするのを習慣にしていますが、たわいもない昔話を聞けるひとが近くにいる幸せをしみじみと感じています。

原田牧場Note

P212~

## 野中 浩一

野中浩一  
著

カウンセラー、  
元不登校の  
高校生たちと、  
フリースクールを  
つくる。

学校に居づらい子どもたちが  
元気に賑わう集団づくり



野中浩一(2023)『カウンセラー、元不登校の高校生たちと、フリースクールをつくる。—学校に居づらい子どもたちが元気に賑わう集団づくり』遠見書房

このマガジンの連載(の一部)が本になりました。特に思春期から青年期の支援をしている、対人援助職の方に向けて書いたものです。タイトルは長いですが中身

は読みやすくなっていますので、よければ  
ご一読ください。

話は変わり 11 月、対人援助学会の 15  
回大会が広島比治山大学で開催され  
ました。私が近県島根に住んでいること  
もあり、久しぶりに参加させていただきました。  
マガジンの著者の方々にもお会いす  
ることができ、アットホームな中でも刺激に  
あふれた素敵な大会でした。

著者の方とお会いした後のマガジンの  
文章からは、これまでとまったく違う彩を  
感じました。事務局の皆さま、お世話にな  
りありがとうございました。

### 「島根の中山間地から Work as Life」 P274～

## 畑中 美穂

義父が亡くなった。危篤の報せには間  
に合わなかったが、最期は義母が手を握  
って看取ったとのこと、義父にそっと「よか  
ったね、お義父さん」と声をかけた。後日、  
法事を前に義実家の庭を掃いていて、見  
上げると柿が生っている。何年か前、義父  
が袋いっぱい柿を下げて届けてくれたこ  
とがあった。口数が少なく、その時も何か  
気の利いたことを言うわけでもなかったが、  
にこにことして「庭で採れたから」と渡してく  
れた。

「今年は、採る人がいませんね。」

そう思っていると、鳥がやってきて  
啄んだ。やがて実も朽ち地面に落ちて、新  
たないのちの循環に溶けてゆくであろう。  
義父が産まれてからずっと暮らし、きれい  
に手をかけてきた庭に、鮮やかなオレンジ  
の珠がにぎやかであった。

### 一語一絵 P259～

## 渡辺 修宏

2023 年夏、毎日暑い日々が続いていま  
す。暑い日に「暑い暑い」とつぶやくと、実  
際以上に暑いと感じるものです。心頭滅  
却すれば火もまた涼と言いますね。

でもかといって、暑くないよ、とか、ちよ  
うどいい、とか、しまいには、寒いくらだ、つ  
ぶやくと、家族をはじめ、周囲の方々に変  
な目でみられます。

その確率 100%です。…だから結局、  
暑いとか、暑くないとか、そういった問題を  
問題として認知しないのが一番なのです。

爆。

### 対人援助実践をレポートする この一冊 P269～

## 米津 達也

『朝日が差し込む窓際の洗面台』(予告)

<https://www.youtube.com/watch?v=S4qNsEfUssc>

短編映画を撮りました。私が学生だった  
20 年前は 16mm キャンラを担いで、フィル  
ムを切って貼って編集していた時代。今は、  
簡単、キレイに誰もが手軽に撮って公開  
できる時代です。一度は諦めた映画製作  
を、20 年を経てまたここに戻ってこられた  
のはとても幸せなことだと思っています。

### 川下の風景 P233～

## 本間 毅 退院支援研究会

### マティーニ飲んでバタンキュー

11 月に広島で開催された第 15 回大会  
で「ワークショップ 1」を企画してもらった。  
テーマは、「多様で持続可能な対人援助  
に必要な知について」である。「画一的で、  
その場限りに見える援助」を見るにつけ、  
私は日頃から問題意識を憶えていた。「制  
度や組織の方針など、理屈ばかりでなく、  
クライアントと援助者の感性を大切にしよう」という主旨を説明しようと理屈を並べて  
ていたうちに、私は「自家撞着状態」に  
陥ってしまっていた。気を引き締め直し「広  
島の人々」への敬意を新たに再出発した  
時には、10 月月末になっていた。

今号ではまず、「広島大会 企画ワー  
クショップ1のご報告」をする。ワークショップ  
の中で、対話と指導を賜った中村正教授、  
村本邦子教授、そして参加者と主催者の  
皆様に深謝致します。次いで、ワークシ  
ョップの準備で参照・引用した文献に私が  
応答する形で、「幾度となく会い、語り合う  
ことの意味」を今号と次号に掲載する。

新潟・広島間は、新幹線で片道 6 時間。  
かつて新潟・水俣間を国鉄で移動された  
皆さんの苦労を思えば大した手間ではな  
い。が、準備の段階でかなり消耗してしま  
い、発表当日の夜は外出する気力もなく、  
宿泊先のホテルのレストランで夕食をとつ  
た。いつものようにマティーニを飲んで、お  
子様ランチのハンバーグ大のステーキを

食べているうちに意識が朦朧としてきた。  
誤嚥しないよう肉をワインで流し込み、自  
室に戻ってシャワーを浴びたらバタンキュー  
。喉が渴いて目が覚めたのは、まだ深夜  
2 時だったので、ビールを 1 缶飲んで翌  
朝は快調に目覚めた。さあ、2 日目も頑  
張ろう！



### 幾度となく会い、 語り合うことの意味 P240～

## 玉村 文

前回に引き続き、子どもの体調不良か  
ら始まった一家全員インフルエンザに感  
染してしまいしばらく寝込んでいました。夫  
は人生で初めてのインフルエンザ感染だ  
ったようで、そのうえ最も症状が重く、こ  
んなにしんどいのかとしばらく引きずって  
いました。子どもたちは比較的軽症で、親  
の方が子どもの看病も含めて立ち上がるの  
も億劫になるほど重症になったことはき  
つと子育てであるあるなのでしょう。なんと  
秋の行事の運動会や遠足には参加でき、  
子ども達の成長を感じる季節でもありま  
した。

### 応援 母ちゃん！ P220～

## 川畑 隆

また「ここへ行ってきました」という話で  
す。はじめての出雲大社と足立美術館に  
行くついでに、「VIVANT の郷」に寄ってき  
ました。奥出雲のまだ奥の山の中、宇治  
の自宅からクルマで 5 時間でした。TV ドラ  
マ『VIVANT』の主人公の父の故郷で、そ  
こには櫻井家住宅とその歴史的資料が納  
められた可部屋集成館があり、阿部寛と  
井上順が座っていたあの座敷がちゃんと  
ありました。やはり VIVANT 効果でしょう、  
人出は多く、蕎麦屋にはまだ昼過ぎにも  
かかわらず「本日の営業終了」の看板が  
出ていました。

やはり古いものには心惹かれます。出



雲大社もそうでしたが、なんかやっぱり“すごい”ですね。足立美術館の横山大観の絵もよかったし、日本画の魅力に浸りました。そしてあのNo1と言われる美術館の庭園は「見事！」の一言に尽きました。



さて、拙著『子ども家庭支援の勘どころ～事例の理解と対応に役立つ6つの視点』が明石書店から発売されました。①子ども家庭への支援業務～福祉臨床現場ならではの視点と協働②発達相談場面での保護者への対応～その子の一番の専門家は保護者③子ども虐待による死亡事例から考える～収束的に拡散的に④要保護児童対策地域協議会の充実のために～「狭く深く」と「広く浅く」⑤子どもへの対応をめぐる事態にかかわる～後手から先手に⑥子ども福祉臨床の現場への支援～「仕方がない」ではないかもしれない…の6章からなる小ぶりな本です。市区町村の児童福祉担当課や児童相談所の職員に読んでもらえればと願って書きました。

**サイコロジー**  
P215～

## 高名 祐美

10月9日。5人目の孫が誕生した。次女に二人目の子ども、女兒だった。次女は、兵庫県西宮市在住、私は石川県在住。長男3歳がいるので、今回は里帰り出産しないと娘は決めていた。帰ってくればいいのと思いつつ、娘の夫が育児休暇を2ヶ月取るというので、こちらから出向くことにした。「遠いから、無理してこなくていいよ」という娘。こっちは娘や孫が気になって仕方がない。予定日の1週間前に3日間、西宮へ行く予定を立てた。娘は「生まれてないのに」というが、地域や娘の家族の生活を知りたくてでかけた。結果、私が

滞在中に陣痛がきて、出産を迎えた。その日、長男は発熱し、生まれたベビーは念のためというも出産後大学病院のNICUへ救急搬送。私は一日予定を延長することになった。娘の夫から、「もう一晩いてくれませんか」と頼まれたこともなんだか嬉しかった。来てよかった、西宮に。

P235～

## 松岡 園子

今年の10月、以前に1年間通った小説の学校へ再入学しました。文章を書くことをもう少し深めてみたい、他の方の作品ももっと読んでみたいと思い、また1年やってみることにしました。選択したのは「詩とエッセイ」コースです。毎週作品をつくり、先生やクラスの皆様にみていただきます。詩は引き算だそうで、短いからこそ何を伝えたいのか考えますし、たった一文字の違いで言葉の意味が変わります。「私は」なのか「私が」なのか？ そんなことで何分も悩んだりします。

**統合失調症を患う母とともに  
生きる子ども**  
P205～

## 杉江 太朗

児童家庭福祉関連施設で働く杉江です。以前、仕事でパチンコ屋に行くことがあり、事情があってパチンコ屋に紛れないといけない状況にいました。そのとき、葉っぱを隠すには森に…ではないですが、パチンコ屋で紛れるためには、パチンコをする方がよいのではないだろうかという考えが出てきて、いやいや、仕事次第、でも仕事でパチンコ屋にいるわけだし、そもそもそのお金は私費になるのか、公費になるのか、仕事で、仕事としてパチンコをするのだから公費か、でも当たりが出た場合、その分は公費になるのか、でも自分の運で当てたわけだから、うーん、というか、当たりが出ると、すぐに席から外られないもんな、いやーでも、うろろろしているだけじゃ怪しいぞなんて、考えながら、倫理的に仕事でパチンコ屋にいたとしても、パチンコ等するわけではないのですが、しょうもないことを考えながら業務に当たっていました。結局は、当たりそうなパチンコ

台を探す人になりきって、パチンコ台を見て回る、たまに立ち止まり、データを見て、うーんと考えるふりをしていました。頭の中ではしょうもないことばかり考えています。

**「余地」-相談業務を楽しむ方法-**  
P202～

## 浅田 英輔

令和5年10月は大変だった。①団先生の研修会の一日が終わり、夕方、疲れてたんですね。細い道でINを攻めすぎてガードレールに左脇をゴリゴリゴリと。ドア2枚から後部フェンダーからバンパーまでホワイトラインを刻みました。②市役所を訪問して打合せ。いつものようにMacを開くと、ん？真っ暗？んん？？電源が入らない。待ってもつかない。修理屋さんにお問い合わせみると「基盤だと思います。9万円くらいです。」って。9万はないでしょ！？！（まだ直してない）③インフルエンザ。まだコロナにもなってないのに。寒くて寒くて頭がいたい。結構つらかった。

クルマ、Mac、本体と、結構大事にしてるものがやられてしまった10月だった。Macはまだ直していない！

**臨床のきれはし**  
P97～

## 三浦 恵子

私は介護等帰省で満席の新幹線に乗る機会が多く、コロナが五類になっても介護帰省前には抗原検査等をしていました。そのうち、検査結果が「陰性」であれば、多少の体調不良であっても大丈夫だ、と考えるようになっていました。

実はそれこそが体調管理の盲点でした。この夏には带状疱疹に罹患し、お盆時期でもあり初期対応が遅れ、一時は三叉神経の痛みで左目が十分に開きませんでした。現在も後遺症の治療を受けています。

「高齢女性は注意」ということももちろん知っていましたが、「高齢者＝65歳」と考えていた私は、80代の後半義母や前期・後期高齢者の親族を心配していました。

しかし実際に、带状疱疹の罹患やワクチン接種について注意喚起を行うターゲットとなっているのは「50歳以上」でした。「50歳以上が高齢者って、いつの時代やねん」「サザ○さんの世界かい」と貼られ

ているポスターに突っ込みを入れ、その後自分がしっかり「50歳以上＝高齢者とする枠」に入っていることにショックを受けたのでした…。

「高齢者」を何歳からとするのかは時代によっても異なります。かつては「60歳以上」であったところ現在は多くの機関が「65歳以上」となっています。

帯状疱疹の痛みは発疹が引いた今も長く続いています。現実の後遺症には対処療法的であっても治療薬はあります。ただ、「50歳以上＝高齢者」という枠にまるっと入ってしまったと知った時の心の痛みは、43歳で「老眼」になってしまった時に次ぐものであり、しかも癒す手段がないまま、年を越そうとしているのでした。

更生保護官署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という

観点から考える

P191～

## 迫 共

年末になると1年間を振り返り、今年の出来事や少ないながら成果をふり返る時間を持ちます。今年の成果の第一は、学会大会をなんとかやりおせたこと。ご協力くださった皆様に感謝します。

それにしてもいろいろな方が亡くなる年でした。坂本龍一、KAN、谷村新司、大江健三郎、森村誠一、りゅうちえる、財津一郎、大川隆法に池田大作…。一世を風靡した有名人が世を去ったことは寂しいものです。亡くなった人を話題にするなんてと、年をとったことを実感します。私は当面、しぶとく生きていくつもりですが、自分の役割を全うできるように、と思った次第です。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ

P198～

## 黒田 長宏

清宮幸太郎のヒット(以上)とサードの守備と(半年休憩)、渡瀬恒彦の『タクシードライバーの推理日誌』(録画する)が近頃のお気に入り。

<https://konnankyujotai.jimdofree.com/>

ああ結婚

P166～

## 松村 奈奈子

今年の秋の旅は石見銀山を見に島根にドライブ。鉱山めぐりが好きで、楽しみにしていたのですが、今回の旅で一番感動したのは石見銀山ではなく石見神楽でした。厳かな歴史ある神社で見た神楽の舞は、想像以上に迫力があり、独特のお囃子に酔いながら1時間見入ってしまいました。



旅館でテレビをつけると、地元の高校の文化祭の風景が放映されていました。その中には神楽部の発表があり、高校生が熱心に太鼓や笛を奏で、神楽を舞っている姿があつて驚きました。神楽は興業化されておらず、地元の人が自分の仕事をしながら、お休みの日にされていると聞きました。子どもの頃から、神楽と共に生きていて、伝統芸能をまもる意識の高さに、素直に感動しました。

精神科医の思うこと

P137～

## 柳 たかを

墓じまい「千の風になって」

自分が死んだあとのことを正面から考えることが、恥ずかしながらあまりなかった。

妻の父親の母、妻の母親の兄(海軍水兵、フィリピン沖で戦死・遺骨ナシ)他、4人～5人の先祖の遺骨を埋葬していた古いお墓、われわれも歳を重ねたし、子もいないのでまもなくこのお墓のおまいりや管理を続けられなくなる。

そこで(墓じまい)をすることになった。遺骨を掘り出したあと合葬法要をしていただけるお寺を探し、そちらに移っていただく。

不勉強で知らなかったが、火葬され骨壺に入れ埋葬された遺骨はお墓の中でかなりの期間、形を留めるが、遺体を入れた棺をそのまま土葬した場合は、時を経ると骨をふくめ何も残らなくなるという、まあ土中微生物の働きを考えるとそうなのかなと…。

先日、法要のあとこの墓の遺骨掘り出しをしていただいた。周りとは少し違う色の土が所々見られたが、それ以外に何もありません。

「ああ ここは土葬だったのか…」

結局、あたりの土を少し回収し、予定のお寺さんに持ちこみ供養をお願いする。

このごろ僕は人の死は自然のことで、さわぐことではないとの思いがつよくなった。

日本画家の父が亡くなる前、病院に見舞いに行ったが、呼吸用の酸素チューブを口内に挿入される前で、少し会話できた。

結核ではないが肺を患っていた父、声はしわがれていただけ、目をあけて見舞い客が僕とわかると冷静な口調でポソッと「○ぬのなんて ぜんぜんこわくないよ…」と。ああそうかと、すぐ「わかっているヨ」と返した。それから少し日をおいて葬儀になり見送った。

兄姉と相談して父と母のお墓は作らず、四天王寺に位牌を持って行き供養をお願いし、その後、8月の万灯供養に行き手を合わせて来た。

気がつくとき秋川雅史さんの歌う「千の風になって」の歌詞が、身にしみる今日この頃です。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ

P143～

## 団 遊

10月1日からアソブロックの三代目社長になりました。社長の座を退任し、後進に任せたのが2年前。気分的には「恥ずかしながら帰って参りました」なのですが、なったからには、J Soul Brothersに負けない三代目にならないと、と意気込んでいます。

社長に帰還した理由は二代目社長の独立(自分の会社を持ちたい)です。人の成長支援プラットフォームを存在意義とするアソブロックなので、それ自体は悪い結果ではなく、どちらかというとならぬ結果だと思っ

すが、想定外だったのは、また私が社長になったこと。ただ、こうやって元気に戻れたのも、委譲が早かったからであり、そう考えると、やはり世継ぎは早いに限ると思いました。

さらに、委譲する際のポイントも学ぶことができました。世継ぎの際に必要なのは、チャップリンの表現に倣うと「理念と仕組みとサムマネー」です。理念は経営理念のこと、仕組みは事業モデルのこと、サムマネーは豊か過ぎない、どちらかと言えば危機感のある状況のことを指します。

理念がないと組織全体が迷います、仕組みがないと売り上げが立ちません、危機感がないとひと踏ん張りが効きません。いずれが欠けても、次世代に上手くバトンは回らないのだと実感しました。そう考えると、トヨタが章男社長(豊田家)に譲ったタイミングは、まさにこれしかないという機会だったと感じます。アメリカ連邦議会に召喚されたあのタイミングこそが、トヨタが一致団結して大政奉還に足並みを揃えられる絶好の機会だったのだと思います。さすがはトヨタ、組織という生き物をよく研究しているなあと思いました。

## 団遊の脱線的経営言論

休載

## 村本 邦子



10月から沖縄に滞在している。最初の2ヶ月は、沖縄各地を転々と移動しながらフィールドワーク。本島はこれまで、すでに、ずいぶん回って来たので、今回は離島巡りに力を入れている。津堅島、慶良間諸島の渡嘉敷島、阿嘉島、慶留間島、外地島、座間味島、八重山諸島の石垣島、西表島、由布島、竹富島、波照間島、与那国島、宮古諸島の宮古島、伊良部島、下地島、大神島、来間島、池間島と並べると、まるで島のコレクションみたいだ。それぞれに地形としての島の成り立ちが違い、自然環境が異なり、地政的条件に

よって中国や台湾、琉球王府や薩摩藩との関係があり、沖縄戦の大打撃があり(とくに地上戦があったか、集団自決があったか、旧日本軍や米軍との関係、空襲被害やマラリアも)、島には一定、境界があるので、それぞれの個性が際立ち、島を人格化した民話があっても不思議ではない。おもに沖縄戦のトラウマとそれを生き延びる土地の力に着目するつもりだったが、明和の大津波や薩摩侵攻の歴史も現在にまで深く刻まれていると感じている。時間軸の視野がさらに広がった。どこへ行っても、自分は大和人であり薩摩人であり、肩身の狭い思いをするが、せめて、学び、理解だけはしておかねばと思う。人頭税石や人頭税廃止記念碑など見ながら、人頭税なんて歴史で習ったこともなかったなと思う。暗い歴史の痕跡と向き合いながら、美しい自然に力を頂いている。最後の1ヶ月は、1ヶ所に定住して、ここまで体に沁み込ませてきたことを資源にして、人々の話に耳を傾け、対話することができたらと考えている。



## 周辺からの記憶 一東日本震災 家族応援プロジェクト P121~

## 國友 万裕

いよいよクリスマスに受洗です。その準備は着々と進んでいます。クリスチャンになったからといって、特別厳しい生活を送るわけではありません。教会に来られている人たちも牧師さんも、皆さん、堅苦しい、厳格な人ではありません。

人を赦すということ、世の中は理不尽であるということ、人には宿命があること、それを受容できるようになったことが僕にとって、キリスト教を学んで良かったと思う部分です。

この頃、死についても徐々に受容できるようになってきました。まだまだしたいことはあるので自死するつもりはありませんが、いつお迎えが来たにしても、それは神様が決めたことです。

神の存在なんて信じない人もいますが、

もし、神がないんだったら、なぜ、火や水や空気や土があるのか、植物があるのか、動物がいるのか、お米があるのか、木星や土星があるのか、何もかも説明がつかないからです。

そして、六十を前にして振り返った時に、僕の人生は確実に見えない力によって導かれてきたと感じます。誰かがどこかで僕の手をひっぱってくれているのです。

死んだ後、その謎のすべてが解けるのかもしれない。

まだまだ死にたくはないけど、もうすぐ六十歳。少しずつ、人生の終活への心構えはできてきたように思います。

男は痛い!

P91~

## 西川 友理

大和大学白鳳短期大学部で保育者養成に、その他いくつかの場所で社会福祉士など福祉系専門職養成・および育成に携わっています。

先日、今年度の対人援助学会第15回大会で「保育関係者による当事者研究—保育現場の『しんどさ』等をめぐって—」というコーナーを、さこさんこと迫共先生と、のりこさんこと南部紀子先生とともに、担当させていただきました。のりこさんは「これから3人でなんか始められそう!」と、わくわくすることをおっしゃいました。保育と当事者研究、出会いそうでなかなか出会いきれないことに、なんともいえないヤキモチした思いを抱える私達3人です。さあ、どんな形で動いて行こうかな?

福祉系対人援助職養成の

現場から

P64~

## 坂口 伊都

久しぶりに対面で対人援助学会が広島で開催されました。広島に行くのも久しぶりでワクワクします。そして、生まれて初めてスマホで新幹線チケットを購入しました。エクスプレスをインストールしたまではいいのですが、教えてくれた方は皆エクスプレス専用ICがあるといいます。でも、その申し込みがあるように見えない。交通系ICを使えると書いてあるのですが、登録の番号を入れても違うと出てきます。違う方の番号を入れていました。何とか登録でき



たのですが、予約チケットと交通系ICに指定されていない。どうすればいいのか、乗る直前までわからず、みどりの窓口や切符売り場は長蛇の列。新大阪駅、人がいっぱい怖い。本当にギリギリで交通系ICと連動させることができました。緊張しながら、改札をピッ。通れた～。嬉しくて、スキップしてしまいました。

学会の方も、久しぶりに皆さんと会えてうれしかったです。ハチドリ舎のお姉さん、とても素敵な方で、娘と娘の幼なじみを連れて行きたいと目論んでいます。いろいろな方との出会いが嬉しくなります。学会実行委員会の皆さん、ありがとうございました。堪能しました～。

### 立場が変わると何が見える P115～

## 河岸 由里子

【とうとう】

喪中はがきの季節である。友人知人からの物は、親兄弟を亡くしたことの喪中が多い。古希を迎える年ともなればそんなものだろう。そんな中、平成7年から関係のあった重症心身障がい者 A さんの喪中ががきが届いた。言葉もなく、手足の拘縮もあり、父母特に母親が懸命に介護を続けてきた。今回の「ああ、相談業務」でも少しだけ触れた、母親が A さんの感情を理解できるというケースである。私が初めて A さんと関わったのは、家庭児童相談員として児童相談所の職員とともに行っていた、重症心身障がい児・者の家庭訪問を通じてである。当時25歳くらいであった。時折、体調を崩して入院すると、病院にお見舞いに行ったりしていた。気管切開をしたこともあった。ある程度父母が年を取ってくると、施設活用をする方が多いが、相変わらず自宅で介護を続けていた。最近、年賀状のみの関りだった。先日、その A さんが亡くなったという喪中のはがきを受け取った。53歳だった。生まれた時から、低酸素脳症で重症心身障がい児として53年間生きてきた。父母の生活に大きな穴が開いただろうと思う。父母も高齢だ。この後が心配になる。訪問してお線香をあげに行こう。ご冥福を祈る。合掌。

公認心理師・臨床心理士・北海道  
かうんせりんぐるむ がかし 主宰  
ああ、相談業務

### P71～ 先人の知恵から P157～

## 大谷 多加志

11月11日・12日は広島で開催された対人援助学会第15回大会に参加しました。なんだかんだで、初めて対面で参加した大会でしたが、これまでの様々な学会参加の中で最も印象深く面白い過ごすことができました。さらに、これまでオンラインでは出会っていたものの、たくさんのマガジン執筆者の方々と初めて直接お目にかかる機会ともなりました。初対面なのに全然初対面の感覚が無く、すぐに打ち解けて、現在の取り組みや関心事で話が膨らんでいくのは、やはりマガジン仲間ならではのでしょうか。今回の連載は、この学会参加での体験を絡めて書いてみました。

### 発達検査と対人援助学 P87～

## 馬渡 徳子

9月から11月にかけて4年半ぶりにオンライン配信なしの学会で発表の機会を得た。

医療関係者の学会にて、現在インフルエンザの流行時期であったことから参加者はほぼマスク着用であったが、イブニングセミナー終了後の交流会では、とても話が弾んでいた。

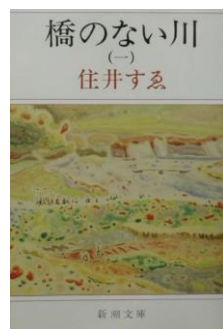
私にとっては、昨年度博士前期課程修了まで全期がコロナ禍のために、先行研究者の方々とはメールによるご指導をいただいていたことから、ようやくに研究報告書を添えての直接対面での御礼を申し上げる機会となった。

「様々な年代の患者さん自身のストレスとエンパワーメントに着目したソーシャルワーカーらしい研究内容だったね。何よりも研究にご協力くださった患者さんの励みとなると思う。残された課題については、案件にふさわしい研究デザインを検討して引き続き研究しましょう。」とのご感想をいただいた。

私は、正に「ソーシャルワーカーとして患者さんに育てていただいた」と思う。厳しいご指摘やご指導もいただき、落ち込んで先が観えなくて泣いたこともあったが、研究意義が伝わったことが心から嬉しかった。

た。

さて、このマガジンが公開される時期には師走を迎えている。今年も、世界のあちこちで、まだまだ紛争が収まらない。



作家の住井すゑ氏が、『住井すゑ対話集 橋のない川に橋を1』(労働旬報社)にて、「幸せに暮らす条件」として、日本国憲法に保障された人間的な暮らし＝文化的な暮らし ①忙しさからの解放<時間の余裕>、②貧しさからの解放<経済の余裕>、③核兵器や戦争などによる滅亡からの解放<恒久平和>の三つを挙げておられる。

この課題は、これからも私自身の課題として真摯に取り組んでいきたいと思う。

「ばあば、  
しあわせって  
ぬくぬくするし、  
こころがしみて  
わくわくするきぶんやわ。」  
(小学4年生の孫のつぶやき)

皆様に、  
メリークリスマス!  
そして  
良いお年を!

### 馬渡の眼 P140～

## 鶴谷 主一

幼稚園はもっか12月8日の「うたおうあそぼう音楽会」に向けて、各クラスで練習が盛り上がってきています！音楽好きの職員が多いこともあって、アコースティックピアノに電子ピアノ、スネアドラムにハイハットシンバル、ギター、45L ゴミペールにガムテープを張った手作りバスドラム、各種パーカッションを使って伴奏もアレンジしていきます。

なかでも、電子ピアノは音色の種類も100種類以上あって、リズムパターンも相当あります。そして8種類ぐらいの楽器音

を打ち込んで録音することができるので、先生達がドラム、ベース、ストリングスなどをせっせと打ち込んで曲のデータを作ります。先日、何年もかけて 250 曲ぐらいになって、メモリーの空きが飽和状態になってしまいました。この電子ピアノは買い替える予定ですが、今後はタブレットやスマホで打ち込みができるようになると期待しています。

子どもたちはというと、だんだん歌声が揃ってきたり、楽器のリズムが合ってきたりして、楽しくって「もっとやりたい！」という感じになってきました。イイ感じです♪音楽会・音楽教育についてはマガジン 30～32 号で書いていますので良かったらご覧下さい。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール [office@haramachi-ki.jp](mailto:office@haramachi-ki.jp)

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から

P61～

## 水野 スウ

11月、なんやかやいろいろしてたらマガジン原稿に向かう間がなくなって、今号はお休みします。

いま一番気になっているのがパレスチナとイスラエルのこと。悲しみ、怒り、血を流して泣き叫ぶガザの子どもたちの映像を目にして、胸のつぶれる思いがしています。民族、宗教、国、土地、、、長い長い歴史が複雑に絡まりすぎていて、軽々しくものを言っちゃいけない気にさせられるけど、だからって黙ってるのはもっといやだ。

しばらく閑々としてたらやがて、同じように何かせずにいられないと思ってる人たちが何人もいることがわかってきて、インドネシア出身のムスリムの人、ラーメン屋さんしてた人、ハンナ・アーレントに関心してる人、といった多様な人たちと知りあうことができました。長く一緒に活動してるピースウォーク金沢のメンバーとともに、今回、出会ったばかりの人たちと「パレスチナを知る はじめの一步」という小さな勉強会をひらくことに。

私はその日、金平成紀さん大矢英代さんという2人のジャーナリストのお話を聞くため東京に行っていたので、金沢の「はじめの一步」には参加できなかったけど、二

歩目として、パレスチナの映画会をすることがきまっていて、紅茶の時間でもそのミニミニ上映会をする予定です。

東京での金平さんのお話はほぼガザのことが中心でした。まず話されたのが、イスラエルとガザの、圧倒的な非対称について。軍事力でも、そして情報の発信力でも。10/7 から、日本の記者は 1 人もガザから伝えていない。つまり私たちが日々目にしているのは、圧倒的にイスラエルからの、イスラエルが許している局からの情報だということを、がっつんとわかってないといけないと思いました。ちなみに、イスラエルから従軍報道が許されているイギリスのBBC は、ハマスのことをテロリストと呼んでいません。

また金平さんは「4日間の停戦というが、これは ceasefire ではない、ポーズ、pause だ、ビデオボタンにある一時停止だ」と。イスラエルとハマスの、というとらえかたでなく、長い複雑な歴史をふまえてみなければいけないこと、善悪二元論で語らないことだ、ともおっしゃっていました。

金沢での「パレスチナを知るはじめの一步」の様子、翌 11/27 の北陸中日新聞にこのように。

<https://www.chunichi.co.jp/article/813072?fbclid=IwAR3Cut8MKWpVsEMQBX1HJqgeH4DYrL21wulGreH93kXr-rBSN64kZAePuY>

きもちは言葉をさがしている

休載

## 中村 正

2023 年 11 月 18 日から 24 日までオーストラリアに行った。立命館大学人間科学研究所が日本財団の支援を得て実施しているフォスタリングソーシャルワーカー養成講座のスタディツアーだ。ブリスベン市を拠点に6ヶ所視察した。ブリスベン市自体は5度目となる。変わったなと思ったのは先住民であるアボリジニやトレス海峡諸島民への敬意の表明の仕方である。2年前の前回よりも徹底していた感がある。先住民の土地にいまいることや長い歴史のある土地であることへの敬意が何かの始まりの前に必ず表明される。今回の学びはそのことと関連している。オーストラリア全体の里子の 50%が先住民であることだ。人口は3%程度となっていることに比較す

ると多いことがわかる。先住民の里子や里親支援のソーシャルワーカーたちと交流を持つことができた。植民地問題と関わる社会的養育の別の面が見えてくる。真夏に向かう時期の前後の往復は大変だったが時差が1時間なので体は楽だった。今後のフォスタリングソーシャルワーカー養成講座に活かしていきたい。

臨床社会学の方法

P25～

## 安發 明子



春にクラウドファンディングで日本語版の出版費用を集めたフランスの在宅教育支援エドゥケーターが描いた『ターラの夢見た家族生活』がついに完成した。精神疾患をもつ母と暮らす 8 歳のターラちゃんのエドゥケーターが主人公だ。

先行購入いただいた方には 12 月中に届き、一般販売も年明けに開始する。家庭で親子を支えることで子育て経験を良いものにするという取り組みが全国に広がる一つのきっかけになるよう願っている。漫画の翻訳は吹き出しの中におさまるよう、改行位置に気をつけながら言葉を選ぶので困難を極めた。人の動き、関係性、言葉遣い、距離感、仕事の中のユーモア、課題、さまざまなことが伝わるはずと期待している。

解説には在宅教育支援の説明のみならず、漫画に出てくるエピソードの背景についても盛り込んだ。フランスで販売されている 3 冊が 1 冊にまとまって 3000 円、とても読み応えのある内容だと思うので是非多くの方に楽しんでいただきたい。

オンラインの読書会なども開催しているので参加をお待ちしています。 [akikoawa.com](http://akikoawa.com)

フランスのソーシャルワーク

P231～



## 団 士郎

▲12月末には初稿を完成させたいと思って、新刊「graphic 家族理解入門」の執筆に精出している。

ところが10月早々にコロナ陽性、11月4～7日は微熱なのでインフルではなかったようだが、気温の乱高下のせいか風邪気味でグズグズ。病気に慣れていないものだから面倒くさくて仕方なかったが、結局医者にかかって、投薬を受けた。

コロナ以降、人前で咳が出たりするのがとてもストレスだ。マスクをしていても、周囲の反応が過度に気になってしまう。

その結果、掛軸漫画展も準備していた広島での「対人援助学会」を欠席することにした。(漫画展だけは、事務局にお願いして実施してもらった。ありがとうございました)

凄く残念で、歳をとってこういうことかなと寂しくもあった。やがて自分がいなくなる世界なんてことを冷静に考えて、まあ当然だからなと思ったりしていた。

▲木陰の物語「小雨の行列」を紙芝居にして使っているという東京の人から連絡が出版社にあった。著作権とか、うるさいことを言う気もないので、上演を見せてもらうことになった。そして感想は、作家が映画化された作品を見てよく言う感想と同じだった。

ニュアンスが違う。しかしそういう読み方をする人たちも当然あるだろう。どこに重心を感じるかは、作者以外の人の自由だ。

絵も紙芝居作家によって全く別物で、物語の肝も述べたようなものだったが、それなのにやっぱり木陰の物語の感じがした。不思議な気持ちだった。

晩年 D・A・N 通信⑤  
P～

## 中島 弘美

社会福祉士をめざす学生さんと、「災害と地域福祉」について学習する機会があった。いきなり災害の話をするよりも、身近な話題から入ろうと考え、「阪神淡路大震災のとき、ご家族はどうされていた？」と、たずねてみると、地震があったことは知っていてもその日のことは詳しく聞いたことはないという学生さんが半分以上いた。30

年近く経過すると災害経験は伝わっていないのだ。

彼らは、関心がないわけではないので、かみ砕いて説明をし、学生同士で意見交換をしてもらいながら支援の事例を学んだ。すると「地域の災害を知る必要性を改めて感じた」「自分が被災したとしても、地域の支援にあたらなといけな場合は冷静さが求められる」等の感想があり、そうそう、その流れでいろいろと吸収していったほしい！と願う。

カウンセリングのお作法  
P42～

## 藤 信子

来年の春の日本集団精神療法学会の大会長が、学会の委員会と一緒にしている関係で、私も運営委員になった。現役ではないので、そんなに働くつもりはなかったし、実際働いてはいないのだけれど、運営委員会をオンラインで行うため、委員は全国規模で動いている。13年前に私が大会長だった時とは、様子が違って、仕事はメールでのやりとりが多い。これで運営委員会の事務局長やプログラム委員長は大変だな、と気遣うことしかできない。それでも役割はあり、寄せられた抄録を読む等忙しかった。と、これは今回原稿を書けなかった言い訳である。

解放の心理学へ  
P39～

## 篠原 ユキオ



時代小説が良い

最近、時代小説が面白い。昔は山本周五郎にハマった時期もあったのだが、人から勧められて読んだ高田郁の『銀二貫』がなかなか良かったので今まで読まなかった作家の物をチョイスして読んでいる。あさのあつこ、朝井まかてらの女性の作家も気に入っている。もちろん定番の藤沢周平も時折間にはさみながら。

若い人たちの今風の恋愛事情や暴力やゲーム世界のような設定などは全く異なり、古い時代の日本人のつましい生活や精神構造は読んでいて心が癒される。まあ、これも歳を取った証拠なのだと思うが、後期高齢者には映画も小説も時代物が心の安定には最適と思うこの頃である。

HITOKOMART  
P227～

## 見野 大介

気づけば、6才の息子が無邪気にサンタさんへのお手紙を書く時期に。まずい、年内に納品しないといけない案件がちらほら残っている。息子に「とーちゃんもサンタさんに欲しいもの書いてよー。」と言われ、思い浮かんだ欲しいものが「時間」やなんて書けず。頑張って今宵も残業します。

ハチドリ器  
P4

## 鶴野 祐介

晩秋の午後、大学時代の友人と一年振りに再会し、京都・北白川の疎水沿いの小径を二人で散策しました。今年、僕は母を、彼はお兄様を、それぞれ亡くしました。「裏を見せ表を見せて散るもみじ」、良寛の辞世の句とも言われるこの詞章を、どちらともなく口にしていました。それはまた、曇った日もあれば晴れた日もある人生を詠ったようでもあり、短調とみればひらりと長調に翻るモーツァルトのピアノ協奏曲第17番の第2楽章のようだと。御蔭通近くの旧知の喫茶店で、香り高い珈琲を味わいながら、二人でゆったりと語った至福のひとつでした。鶴野祐介

うたとかたりの対人援助学  
P161～

## 山口 洋典

秋の学会シーズン、なかなか複数の場に参加できないまま、冬を迎えることになりました。そうしたなか、11月4日と5日には、立命館大学大阪いばらきキャンパスでの日本質的心理学会第20回大会にて準備委員会の事務局長という役目をいただきました。衣笠キャンパスの所属ということもあって、ややアウェイな環境でのお仕事で、多くの方に助けていただきました。一方、インボイス制度の開始に伴う対応

など、新たな経験知も得ることができました。

学会にはあまり参加できなかったものの、11月17日から19日まで、新潟県小千谷市を訪れました。日本質的心理学会による「質的心理学研究」18号に掲載された論文でも記しましたが、東日本大震災の復興支援のあり方を考えるにあたり、2012年度から小千谷市の塩谷集落は立命館大学のサービスマニエール科目の受入先としてお世話になってきました。しかし、コロナ禍と高齢化の両面から、2008年11月3日に設立された住民主体のむらづくり団体「塩谷分校」が活動を終えることになり、かつての受講生らと共に11月18日の午後には閉校式に参加させていただきました。2004年10月23日の新潟県中越地震から来年で20年、団体としての活動に幕は下りたものの、これまで育んできたご縁に感謝と丁寧な活動に敬意を表しつつ、引き続き塩谷集落のお仲間として足を運ばせていただけることを楽しみにしています。

**PBLの風と土**  
P169~

## 小林 茂

突然ですが、対人援助マガジンの連載を止めようかと決断しました。

年々、日ごろの業務がたくさん増えてしまったことに加え、8月の人間ドックの検査でも治療中のもの以外にも新たに数値がひっかかり、このまま自制しなければ持病が増えると、自らの活動の棚卸を決意した次第です。

連載の話題が中途半端のままこの連載を中止することと、対人援助学会の退会は迷いに迷いましたが、活動の見直しが必要であった事情をご理解ください。

これまでごいっしょにさせていただき、団先生を始め、同人の先生皆様、ありがとうございました。

**小林さん、ありがとうございました。  
どうぞお元気で。(編集長)**

## 寺田 弘志

当マガジン編集長の団士郎さんは、「深く掘りたいと思ったら、広く掘り始めろ」を座右の銘にされています。団さんは昔、この言葉と出会い、心に留めてこられたそう

です。最近、庭に穴を掘ることがあり、その言葉がずっと頭の中でリフレインしていました。その真意を思い違っていたようですが、穴を掘りながら考えたことを、今回は書いてみます。

**接骨院に心理学を入れてみた**  
P175~

## 古川 秀明

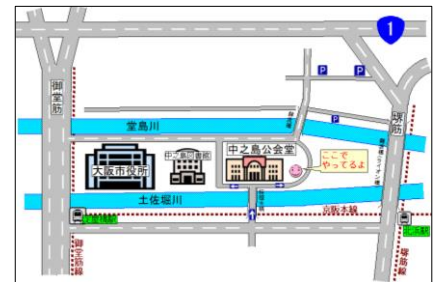
昨年度、自殺した子どもの数は初めて500人を超えました。21年の473人から27人の増加です。昨年度、ウクライナで、戦争で死亡した子どもの数も約500人と報道されています。今の日本では、戦争がないのに、戦争をしている国の子どもと同じ数の子どもが自ら命を絶っています。子どもに関する相談の第一線にいる以上、何らかの努力は不可欠だと思います。この取り組みは費用がほとんどかかりません。全国の学校で応用して頂ければ幸いです。

**講演会&ライブの日々**  
P103~

## 竹中 尚文

54号の執筆者短信にも書きましたが、これまで一緒にやって来たホームレス支援団体から独立して活動を始めました。「私は善行をしているのではない」と思っていた行動でした。そうすると日々の生活の中で、ちょっとしたことに自分の正当性を心の中で主張している私がいることに気がきました。「私は正しい」「私は善なる人間なのだ」という思いです。忸怩たる思いです。◆改めて自分の姿を認識したわけですが、自己正当性を意識した支援活動は被支援者を見下す視線につながるようです。このような視線については、ホームレスの人たちは敏感です。この点については、活動規模は小さくなったけれど、自分自身のためにも独立してよかったですと思っています。◆一方で、私たちの支援活動のスタッフは少人数になりました。すなわち、手が足りないという状態になっています。手伝ってもいいよと思われる方を募集しています。◆活動の内容は、食品(いなり寿司、ゆで卵等)と日用品(固形石鹸、ひげ剃り、歯ブラシ等)の配布です。活動の日時は、毎月第4火曜日の午後7時半から30分程度で配布します。手伝ってくださる方は午後7

時に地図の場所(大阪市中之島公会堂東側広場)において下さい。当面の日程は、12月26日(火)・1月23日(火)・2月27日(火)・3月26日(火)を予定しています。お越しいただく時は、防寒対策をしっかりとっておいで下さい。◆遠方の方で、手伝ってもいいよという方をお願いします。ホテルで宿泊されたときに、使わなかった固形石鹸、ひげ剃り、歯ブラシなどを送って下されば嬉しいです。送り先: 〒679-2111 姫路市山田町多田 専光寺



**路上生活者の個人史**  
p

## きむら あきこ

もうすぐ1年が終わる。今年は、いつもの年とは少し違った1年になった。やる気が出ない。あまりにもやる気が出ないために、8月から、女性専用の「〇ーブス」というスポーツジムに通いだした。週2回は通っている。周囲からは、「らしくないね。意外だね。」とからかわれながら続いている。運動している時の無心になる感じが心地よい。頑張り過ぎると、逆に体が動かなくなる。(持病のせい)

映画館の会員登録をして、お得に映画鑑賞をしようと思ったものの、会員になった途端、全然タイミングが悪く映画を観に行けていない。まったくお得感がない。観たい映画はたくさんあるのに・・・

あと一つ。チャレンジしたくて間に合わなかったことが残ってしまった。

やる気が出ない割には、やろうとしている。その昔、息子に言われた。「やる気はやりださないと出てこないよ。何もしなかったら、いつまでも、やる気は出ないらしいよ。」と。

残りわずか。今は、クリスマスソングの練習中!

**かぞくのはなし**  
p

## 山下 桂永子

今年度から教育センターでの肩書が変わりました。これまで「心理指導員」という肩書だったのですが、「主任相談員」というものになりました。給料は今のところほぼ変わりません。「心理コーディネーター」という肩書にしてくれと言ったのですが、却下でした。学校現場に「コーディネーター」という肩書の先生がいっぱいいるのですよね。



仕事の内容はといえば、あまり変わりませんが大きく1つだけ変わったことは、週に2回、10年ぶりぐらいに適応指導教室で子どもたちと過ごすことになりました。教育相談との両立はなかなか難しいのですが、中学生の数学に四苦八苦したり、ボードゲームで熱戦を繰り広げたり、調理実習で子どもたちと土鍋で炊いた新米でおにぎり作って頬張ったりと楽しい日々です。

心理コーディネーターになるために

P

## 脇野 千恵

先日、コロナ禍以来4年ぶりに高校の同級生と出会った。その間、友人はコロナに罹ったらしい。無事だったのは、何よりだ。今年、2人は「古希」を迎えた。思春期にいっぱいしゃべり、部活をし、帰りに寄り道をしたり…たくさんの時間を共に過ごしたことが思い出される。随分と年を重ねたものだなと、友人の顔を見て思う。昔の思い出もあるが、話の中身は、専ら健康のこと。これからやりたいこと。主婦として長年頑張ってきた彼女は、外に出て何かしたいと言う。私はといえば、もうそろそろ仕事をセーブしスローな生活がしたいと。互いに生活スタイルは違うが、70歳を迎え自分らしくありたいと思うのは一緒だ。実は、古希を祝う学年の同窓会が予定されていた。なかには故人になった友人もいるだろう。私たちはそんな大勢の同級生と会うのが苦手なので、あえて2人の同窓会とした。紅葉狩りのあと、お寺でのライブに。素敵な時を共に過ごせたこと、幸せな一日だっ

た。

ころ日記「ぼちぼち」

P

## 千葉 晃央

広島大会の前に、時間があつたので袋町小学校平和資料館へ大谷さんといった。小学校で平和資料館を持っているのがこの土地。この小学校は原爆投下の爆風で鉄筋コンクリートの建物の外枠だけ残し、他は吹き飛ばされたそうである。周辺は木造ばかりで焼け野原に。その結果、この建物の中に人が集まったそうである。焼き尽くされたときに残るのはチョークと焦げた壁。住民の安否情報や伝言が直接壁に書かれた。その壁は戦後復興時には消されることなく上から覆われ、小学校として使われた。それが後年発見され、そのまま保存されている。爆風で折れ曲がった鉄の扉や窓枠も展示。壁に残されたメッセージに登場する家族を追ったドキュメンタリーも映像として見せていただいた。



被ばくを耐え抜いた「被爆建物」は、近くにある旧日本銀行広島支店も同様と聞き、立ちよつた。旧日本銀行広島支店は1992年まで利用された被爆建物。頑丈な建物で爆心地から380mしか離れていないが今も残っている。現在は、展示会場としても使われていて、今回は広島の海外移民を伝える展示をしていた。また、007カルパンでしか見えないような地下金庫の本物も見学。

広島市の路面電車、広電では京都市マークをつけた旧京都市電車両に出会う。「路面電車は道路上で車より優先」ということを決めた地域だけが路面電車が残ったときく。よく動画サイトで京都市電の昔の動画を見るが軌道内に車が入って、道路上が混乱していた場面もよく見る。また当時は歩道が狭いし、未整備であった。広島で走る京都市電の姿は過去の記録映像としていたものが目の前にあるのでうれしいようで、寂しいような、うらやましいような気持ちにもなった。



私の祖父は原爆投下前の広島の陸軍病院に入院していた。そのまま秋田に引き上げ、傷痍軍人として戦中の後半を過ごした。その陸軍病院の場所を前回来た時に教えてもらった。陸軍病院も原爆投下でなくなってしまったらうことを知った。今回の被爆樹木のフィールドワークでは広島城内の元陸軍の広島大本営やその関連建物の痕跡にも触れた。そして、その案内をしてくださった渡部久仁子さん（ANT-Hiroshima）の祖母はその陸軍病院で看護師として働いていたと教えてもらった。私の祖父もお世話になったかもしれないのである。渡部さんには「またよければ祖母に会いに来てください」と声をかけていただいた。広島大会は個人的にも忘れられない学びとなった。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

[chibachi@f2.dion.ne.jp](mailto:chibachi@f2.dion.ne.jp)

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P18~

## 荒木 晃子

3年余りに渡る毎月のオンライン・カウンセリングを経て、この10月から再び島根出張が始まった。現時点で、私の業務に特に目立つ変化は生じていない。変わったといえば、この春以降の体調不良に酷暑が追い打ちをかけ、7月以降、体重が10kgほど落ちた程度だろう。気力は使うが体力はさほど必要としないため、相も変わらず不妊患者や通院するカップル、通院後も相談を必要とする方々のカウンセラーとして、現在もいつもと変わらない自分がある。

一方、島根県で同時期に導入されたパートナーシップ制への対応に、医療環境の整備は必須と考え動き始めた自分もある。地元の当事者にアクセスし、院内勉強会を企画、開催した。医療現場にLGBTQ当事者を患者としてお迎えするにあたり、医療者としての知識以前に、必要不可欠



な知識と情報を、院内スタッフ全体に周知する必要があるからだ。世間では、セクシュアルマイノリティー当事者への差別、「LGBTQ 理解のための人権教育」の教育現場への導入、同性婚訴訟、性別変更のための手術要件の一部撤廃他、あらゆる領域で関連情報を見聞きする機会が増えた。しかし、いずれも医療現場で当事者を迎えるにあたり有用な情報とは言いがたく、あまり参考にはならない。しかも、世間にはそういった話題に関心を持たない人々も多く、当然ながら医療者として例外ではない。そこで、勉強会は「まずは、知ること」からスタートした。その内容は、次号で紹介できればと考えている。

### 生殖医療と家族援助

P

## 岡崎 正明

おかげさまで対人援助学会広島大会が盛況のうちに無事終了した。参加して下さったみなさん、本当にありがとうございました。感謝の言葉や想いは別稿に書かせてもらったので、ここでは参加した企画で感じたことを少し書かせてもらいたい。

その1。記念講演。広島出身と名乗るのが恥ずかしいほど、私は被爆者のことも、被爆後の人々の苦労や葛藤や、それでも前を向いてきた姿をほとんど何も知らないなあと改めて実感。もっとその声を聴き、生き様を知りたいなと感じた。そして自分の子どもたちにもつないでいきたいなと。

その2。ハチドリ舎企画。私は企画発案者でありながら、一番近い特等席で見させてもらう参加者のような気分だった。そしてみなさんが私が面白がっているものを、同じように面白がって興味津々な眼差しで見ている様子を、最高のご褒美と感じながら味わっていました。

その3。本間先生企画。中村先生、村本先生の話も相まって、非常に深く感じることの多い時間。3名の実践家のそれぞれの視点や知恵や葛藤や哲学の一端が見えて、自分が支援職として今後どうあるべきか、その覚悟を作っていく上でのヒントをたくさんもらった。

その4。ポスターセッション。墨遊びがある景色が良かった。自分も参加したけど、時間があればもっと遊びたかったな。でも他人が遊んでいる姿を見るのも面白く。

様々な発表者のお話を聴いて、たくさんの刺激もらった。

その5。保育の当事者研究企画。当事者研究はやはり予想通り面白い！南部先生の温かい語り口と、子どもの伴走者としての視点に立った関わりに関心と共感の嵐。

その6。心理支援ツール体験企画。今の児相の現状でも、対立や指導だけでなく、なんとか前向きな知恵を出して親子を支援しようとするアイデア。面白いその姿勢がサイコー。グループワークで時間を忘れるほど楽しんでしまった。

本当はもっとアレコレ書いたり誰かと共有したいところですが、一旦この辺で。ここまで書いてあらためて、自分はいわゆるホスト側なのに、結構楽しんでいてよかったのだろうか？自分の結婚式で料理完食しちゃうみたい。なんかすみません。でもその方が皆さん楽しめる？ということにしておきます。

### 職場の対人援助論

P

## 來須(らいす) 真紀

9月の終わりにバタンと倒れました。体の強さにはかなり自信があったので、正直ショックでした。それから体調がいまいちすぐれず、実は今も休職しています。

しかし、一番困ったのは、どこの病院に行っても「原因が分からない」と言われることでした。原因が分からないということで「本当は、元気なのに甘えている」と思われているのではないかと思ったりしたこともあった。かなり神経もすり減り、「対人援助職をやめなければならないかも？」と焦っている自分もありました。しかし、少しずつですが「今の職場だけが対人援助ではない」と思えるようになり、今は、長い目で体調不良を治そうと思えるようになってきました。よく言う言葉なのですが、「病気が弱く弱く人の気持ちがよくわかる」という感じがこれなのでしょう。おかげさまで気分よく動ける時間は増えてきているような気がする。

しかし、母親業には病休はないので、相変わらず母親業は続いている。正直、これはキツイ。習い事に付き合ったり、送り迎えをしたり。しかし、こちらも「母親の気持ちがよくわかる」という感じなのでしよ

う。自身の病気を通して、ちょっとだけモノの見方が増えた気がするこの頃でした。

### 教室の窓から

P307~

## 小池 英梨子

今月の1ショット。先輩さくらねこさんが見守る中でTNR。



そうだ、猫に聞いてみよう

P151~

## 工藤 芳幸

この『対人援助学マガジン』に掲載させていただくようになってから、休載にすることはあっても短信は毎回送るようにしていますが、急にいろいろ動かないといけないことばかりが続き、諸事に挟まれて危うく忘れるところでした(本編は休載いたします)。

先日、ある場所で講演させていただく機会があり、その資料にマガジンに書いている「みちくさ言語療法」の一部を使いました。仕事上の役割を身にまとったカチツとした場面では、ここに書いている内容を正面から話すことはなかったのですが(何しろタイトルが「みちくさ」です)。道草の方が本道になってきたのか、そもそも道草というのが勘違いなのか。そのあたりは定かではないですが、道草には価値があると思っています。休載を挟むことが多いので本編がなかなか進みませんが、タイトルがタイトルなのでいつまでも進まないかも知れません。

### みちくさ言語療法

休載

## 一宮 茂子

### 生体肝ドナーをめぐる物語

休載